

京都検定 よもやま話

第23回

京都検定講演会講師による「よもやま話」。
京都検定を通じて、京都の魅力を再発見しましょう。

「モダン建築」というカテゴリーに「沼る」



塩原 直美
京都観光
アドバイザー

昨年11月に実施された3回目となる「京都モダン建築祭」。今回の参加建築数は、何と102件という大規模な開催となりました。もはや京都の「秋の一大イベント」として定着。皆様の中には、実際に見学された方もいらっしゃるでしょう。「家の近所や職場近くの〇〇も公開していた！」と生活圏の中に素晴らしい近代建築がたくさん残っていることに気づかれた方もおられるでしょう。

さらに最近のうれしいニュースとしては、京都市役所本庁舎が国の

登録有形文化財となることです。

この建物は「関西建築界の父」と呼ばれる武田五一が監修し、武田五一に師事した中野進一が設計。中国風やインド風、イスラム風の建築様式を各所に取り入れつつ、建物最上部の小塔は毛筆をデザインした日本的造形。祇園祭のくじ取り式が行われる市会議場も重厚です。このほか、府立図書館、関西美術院等も武田五一の設計。京都検定では建築家を問われることも多く、建築物の現存数の多い武田五一は、京都国立博物館明治古都館等を設計した片山東熊とともに最多出題となっています。

京都でモダン建築を楽しむなら、まずは「三条通」と「岡崎」の散策がおすすめ。数名の建築家たちの作品がギュッと集まっています。見比べる楽しさがあります。いくつか見比べていくと、今度は

自分好みの建物が何となく掴めてきて、そうすると特定の建築家が急に気になってきます。外観のみならず、「建物の中は?」、「全体の構造は?」等考え出したら、もう「沼り」ます。私は伊東忠太

が気になり、伊藤忠太が設計した本願寺伝道院や祇園閣、豊国廟等を見て回りました。たとえ中に入れないと分かっているとしても、わざわざ伝道院前を通ったりします。一通り、京都のモダン建築を見聞してからというものの、もう街で「キョロキョロ」が止まりません。

「これも、あれも、あそこも、何か建物が語っている、気がする...」と。

京都の歴史・文化は奥が深いゆえ、学べば学ぶほど「底なし沼」。モダン建築もそのカテゴリーの一つです。

※「京都・観光文化検定試験」、「京都検定」およびそのロゴマークは、京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。



国登録有形文化財となる京都市役所本庁舎



試験会場の様子

第25回京都検定を
実施しました!

昨年12月8日に第25回京都検定を実施し、計5038名に受験いただきました。京都検定では京都の文化や歴史をさまざまな切り口で出題しており、このコーナーで取り上げた1〜3級の公開テーマ「法然上人」、「紫式部と京都」、「京の年末年始」のほか、2級では「京都のモダン建築」をテーマにそれぞれ10問、出題しました。

受験された皆様、お疲れ様でした!
合否発表は、1月24日(金)です。



◀ 京都検定の詳細はこちら
または

京都検定

